

各地域で自立した安心安全な移動手段を確保するための教育ができるようサポート

Honda は「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念のもと、お身体の不自由な方々の交通社会復帰に向けた安全な移動手段確保のための教育機会を提供しています。さらに、各地域が自立してこの運転復帰プロセスを構築できるように、病棟施設や NPO 法人、自動車教習所を支援しています。

Honda が開発した福祉安全運転プログラム

自操安全運転プログラム



主に高次脳機能障がいを持った方を対象に、クルマの運転を通して社会復帰されることへの支援として開発したプログラム。運転時における現状の把握、見えた課題に対する訓練を行い、より安全に自由な移動を獲得してもらうことを目的としています。

Honda の交通教育センターで提供

自動車教習所へノウハウを普及

移送安全運転プログラム



リハビリ施設やデイケアセンターへの送迎中の交通事故を予防し、利用者の安全安心を確保するために開発したプログラム。送迎運転者への運転アドバイスだけでなく、利用者の立場を体験し、利用者への配慮の大切さを理解してもらうことを目的としています。

Honda の交通教育センターで提供

NPO 法人および四輪販売会社へノウハウを普及

場と機会の拡大へ

自動車教習所と医療関係者が連携し、安心安全な運転復帰の輪を拡げる



沖縄県障がい者運転復帰に向けた教習所指導員講習会



作業療法士が患者役として運転し、助手席の教習指導員が自操プログラムを進行

Honda は自操安全運転プログラム（以下、自操プログラム）のノウハウを自動車教習所へ提供しています。（一社）沖縄県指定自動車学校協会（以下、協会）は、高次脳機能障がいを持った方が回復後にクルマの運転を再開したいというニーズに対応するために（一社）沖縄県作業療法士会と共催で、9月に「沖縄県障がい者運転復帰に向けた教習所指導員講習会」を開催。講師となったHondaの交通教育センターのインストラクターが津嘉山自動車学校、北丘自動車学校、普天間自動車学校、名護自動車学校の教習指導員に自操プログラムのノウハウを伝えました。県内18病院から参加した作業療法士は患者役となって、手でアクセルとブレーキを操作する補助装置などが付けられた教習車両を運転し、教習指導員による自操プロ

グラムを体験しました。多くの作業療法士が補助装置の付いたクルマを運転した経験がなかったので「操作の難しさを実感できて良かった」「補助装置の利用を患者様やご家族に勧める際の役に立つ」という声が聞かれました。講習会を受講した普天間自動車学校次長の島尻繁さんは「このプログラムは、実際の運転場面をふまえた奥深い内容だと感じました。今後、当校でも取り入れたいと思います」と自操プログラムを評価しています。協会専務理事の下地一彦さんは「この講習会を機に運転免許課、自動車教習所、作業療法士等と連携を深め、病気や怪我で運転を中断している患者様が一人でも多く運転復帰できることを祈念します」と今後の抱負を語りました。

移送安全運転プログラムを活用した Honda Cars による送迎安全運転講習会



Honda Cars 大阪による送迎安全運転講習会



利用者に負担をかけない運転操作を練習
※車内のゆれの大きさを体験するため、シートベルトを外しております

Honda は NPO 法人と連携して福祉施設の送迎運転者に移送安全運転プログラム（以下、移送プログラム）を受講してもらうための取り組みを行っております。各地域の NPO 法人の指導者が移送プログラムを適切に運用できるようにするためのマニュアル作成を進めているところです。

さらに、今年からは福祉車両を販売している Honda Cars（四輪販売会社）とも連携。Honda Cars 大阪は3月に送迎安全運転講習会を開催しました。同社の呼びかけに応じた近隣の福祉施設の送迎運転者や管理者が移送プログラムを受講。Honda の交通教育センターのインストラクターの指導のもと

と、利用者に負担をかけないアクセルとブレーキの操作を身につけました。講習会を企画した同社新車営業部法人販売課チームの佐藤吉伸さんは「車両と安全運転教育をセットで提供していくことは、お客様である福祉施設の皆様の困りごとの解決につながるので、今後も継続していきたい」と話しています。このような講習会は京都府や兵庫県、滋賀県でも開かれています。

また、北海道でも開催が検討されており、継続して自らが講習会などを通じて安全を手渡しできるよう、指導者養成も合わせて展開を予定しています。